

〔文献名〕 小暮泰用より管理局長竹内徳治宛「復命書」

〔作成年月日〕一九四四年七月三一日

〔原本所蔵機関〕外務省外交史料館

〔原本オンライン公開〕アジア歴史資料センター・レファレンスコード B02031286700

〔注〕読みやすさを考慮し原文の一部の漢字を通用の字体に、またカタカナ書きを平仮名に改めた。また、□は文字データ入力にあたった者の注である。

復命書

囑託 小暮泰用

依命小職最近の朝鮮民情動向並邑面行政の状況調査の為朝鮮へ出張したる處調査状況別紙添付の通に有之右及復命候也

昭和十九年七月三十一日

管理局長 竹内徳治殿

## 目次

- 一、戦時下朝鮮に於ける民心の趨勢  
殊に知識階級の動向に関する忌憚なき意見
- 二、都市及農村に於ける食糧事情
- 三、今次在勤文官加俸令改正の官界並に民間に及したる影響
- 四、第一線行政の実情  
殊に府、邑、面に於ける行政浸透の現状如何
- 五、私立専門学校等整備の知識階級に及したる影響
- 六、内地移住労務者送回家庭の実情
- 七、朝鮮に於ける労務規制の状況並に学校報国隊の活動状況如何

以上

一、戦時下朝鮮に於ける民心の趨勢

〔中略〕

斯の如く考へて居る彼等は漸次日本の国力を疑ひ、或は朝鮮人は第一次世界大戦の時に印度が英国に騙された様に、日本政府に騙されて居るのではないか、或は重慶政府が声明した様に日本は長期戦に依つて經濟的に思想的に行き詰るのではないか云ふ様な全く愚しい考へ方を抱いて居る人も最近各地に相当多く増加して来たことも事実である

更に民族主義者の一部には内鮮一体への誤解も相当ある様に見ゆる節もある、例へば国語ノ奨励を以て朝鮮語の否認だと云ふ誤解もあり、諺文新聞を統制した事に付てもこれは朝鮮文化の破壊であると考へて居る向もある、之れは過般京城に於て開催された各界代表者懇談会の席上に於ても暗に関心を有する向もあつたのである、特に今後決戦の遅速利鈍に依つて彼等の思想も相当変化があるものと思はれる、左に参考の為京城に於ける有志懇談会席上に於て朝鮮人有志の希望する所の要点を記述することにする、尚出席者は左の通りである

日時 昭和十九年六月十七日午後五時

場所 京城府 白雲荘

出席者 荒木民政課長

小暮囑託

坂手属

毎日新報編輯局長 鄭寅翼

〃 社会部長 洪鍾仁

毎日新報社会次長 金村承燾

人文社代表 石田耕造

京城拓殖經濟専門学校教授兼生徒監 玉岡璿珍

宗救家 李重宰

京城弁護士会副会長 姜柄順

実業家 李晟煥

右記各有志から席上希望として述べられた要点の内主なる項目のみを挙ぐれば

(イ) 内地朝鮮間の人事の交流を最も頻繁ならしめ伝統的と見るべき一種特殊なる朝鮮的官僚気分を速かに改め、上意下達、下意上通を徹底せしむること

(ロ) 末端政治の強化、即ち邑、面長の人物選定並に邑面職員の増員と素質向上を図ること、之れには先づ待遇方法を講ずること

(ハ) 労務管理の改善、指導員の再錬成配置、

(ニ) 朝鮮奨学会を改造すること、特に官僚化、取締化の如きことを改め専ら指導教化に努めること

(ホ) 内地に於ける朝鮮人労務者の多い所には各班に実力ある朝鮮人班長又は寮長を

速かに配置すること

(ヘ) 今後朝鮮より供出する労務者は従来の如き募集又は官の強制斡旋方法を改め指名徴用制を速かに実施すること

(ト) 今後朝鮮及朝鮮人問題の結論に付て吾人の希望とする所は総合的に云へば理窟よりも情と涙を以て解決して貰いたい、

(チ) 対朝鮮人問題に付て、其の善悪を問はず概括的に評論することは大に警戒すること、当局が余り監視し過ぎることを改め或る程度朝鮮人を信頼し朝鮮人に責任を持たせること

(リ) 配給制度の公平を図ること

(ヌ) 朝鮮には内地と異なる前官礼遇と云ふ特殊のブロック〔入力者註…「ブロック」はゴシック体〕がある、即ち高官高位の退職者に全鮮各地の特殊機関の実権を与へて居ることである、之れが朝鮮統治の癌となる場合が極めて多い、これを速かに改革すること

(ル) 内鮮一体の完成は内鮮無差別の完成に始まる故に内地延長として朝鮮人にも参政権を与へよ

(ヲ) 併合当時は貴族並に上流階級を相手に朝鮮統治を行ひ、次ぎは第二次的に公職者を相手にして政治を行つて來たが、然し之れは今の時勢には既に遅し、今後は青年並に大衆を相手とする根本政策を樹立せよ

(ワ) 御世辞を使ふ者のみを登用する制度を改め本当の人物を選び出すこと

## 二、都市及農村に於ける食糧事情

〔略〕

## 三、今次在勤文官加俸令改正の官界並に民間に及したる影響

〔略〕

## 四、第一線行政の実情

殊に府邑面に於ける行政滲透の現状如何

決戦下外地に於ける第一線行政の実情の真髓を調査することに付ては上司の内命もあり且又私自身の職柄多大の関心を以て可なり多方面の人々に会つて語つたこともあつたが先づ南鮮と西鮮地方に於ては少々悲觀したこともあつた、それは或る地方の有力者の話を聞くと、其の答へに曰く今日朝鮮の第一線行政は全く行詰りたる状態にして誠に寒心に堪へざるものありと言つたことである、其の理由に曰く、朝鮮には昭和十六年頃より、これには「韓国以上」と云ふ合言葉が民間に流行したと云ふ、原因は社会情勢の急変と官紀の廢頽により一般大衆の苦しみが増加し、遂に斯る言葉が流行する様になつたが、先づ旧韓国時代には一部富豪のみが苦しみたるに過ぎずして一般大衆は寧ろ今日の

如き苦しみを体験したることがなかったが今日の現状は富豪よりも一般大衆がもっと苦しむ様になったと云ふことである、然し斯の如き不評判の原因は結局戦局の進展に伴ひ色々と複雑な責任の負荷が多くなつたためであり、又此の複雑性の内容を彼等が理解し消化し得ないからであるものと思ふ、即ち上意下達、下意上通ガが円滑になつてないからである

事実朝鮮の第一線行政の実情は四年前に比し相当複雑となつて来て居る、戦局殊に大東亜戦争後に於ける戦局の進展に伴ひ朝鮮には各種の榮譽と責務が新に負荷されて来て居ることは事実である、今其の主なるもののみを挙ぐるも

イ、食糧を主とし其の他數十種に及ぶ農林畜産物の供出

ロ、貯金及献金乃至献納

ハ、労務の供出

ニ、志願兵より徴兵制度

ホ、特殊鉱工物増産

ヘ、義務教育実施と教育整備

等にして之等の施策は殆んど其の結果に於て達成せられざるものなきは其の都度当局者に依つて半島官民の努力と協力に対する感謝の言葉を以て言明された通りである、即ち外形と結果に於ては上部の意図は殆んど第一線末端機関に滲透し従つて第一線の官公吏亦聖戦完遂に奮闘しつつあるのが其の現状であるものと見るのが普通であらう

然らば之を以て直ちに朝鮮の第一線行政の実情は満足すべき状態であるかと云ふに決してそうではない、問題は其の結果に至る迄の過程と方法乃至は政治技術の如何にあるものと思ふ、此の点に関する限りは上部の意識は凡そ末端下部に滲透し居らないのが今日の実情であるものと思ふ、為に総督政治に対する予期せざる疑惑、不平不満の生ずること尠しと見るのが正しい調査資料と思はれる、故に斯の如き原因を一日も速かに除去することこそ朝鮮統治をして本然の姿に戻し明朗性あらしむる最大急務なり〔入力者註…「と」欠落か〕信ずるのである

其の原因の主なるもののみを挙げれば

イ、郡守に至る迄の不滲透の原因

本府に於ては她地方第一線の実情に通曉せず総合的認識を缺く者が自己の分野のみ踰躡して余りにも理論的のみ精微なる立案を為したるものが道に於ては其の多くが本府よりも素質低下せる属僚の手に依り之を咀嚼することなく其の儘移牒せられ郡に集中されるのである、(而も本府の企画者の中には實際的経験及識見の乏しき者多く道の属僚中には亦知的に低下なる者多し)

ロ、郡より邑面に至る間ニ・於ける不滲透

郡邑面職員の知的不足と素質低下等に加ふるに弱馬馱重的に事務は之に集中輻輳する結果、重点事務たると否とに拘らず平等に無関心となり研究工夫は殆んどなく、且つ又邑面財政の涸渇は之等諸優遇方策を只名目上のものたらしむる事になり一種の疲労感

嫌悪感さへ抱き会議及上級官庁の監励出張に依り強調せらるる施策方法に關してのみ而も其の結果特に最終的結果、々々、例へば食糧増産供出工就て謂へば播種面積拡張、耕種法の改善等は之を多く報告の上に於てのみ達成し其の虚偽の報告に基いて割当てられたる供出の達成にのみ全力を注ぎ為に民衆をして当局の施策の真義、重大性等を認識せしむることなく民衆に対して義と涙なきは固より無理強制暴竹〔入力者註：「行」の誤記か〕（食糧供出に於ける殴打、家宅搜索、呼出拷問勞務供出に於ける不意打的人質的拉致等）乃至稀には傷害致死事件等の発生を見る如き不祥事件すらある

斯くて供出は時に掠奪性を帯び志願報国は強制となり寄附は徴収なる場合が多いと謂ふハ、邑面より民衆に至る間の不滲透

邑、面殊に面は第一線に於て一般民衆との中間に立つて本府の企図する一切の施策を担当実践する重要な末端行政機関であるが其の下に知識極めて低級にして国語も理解せず極めて不自然なる朝鮮語を以て記されたる公文通牒を受領し素朴なる思惟の下に活動する区長があり、此の区長に至り一切の理論的行政施策は褪色され殆んど其の政治意義を消失するに至るものと思はれる

然れば之等の弊害を如何にして取除くか、其の是正の方策として主なるものを挙げれば

イ、道の属官級に知的素質の優秀なる朝鮮人青年を多く増員すること

ロ、府、邑、面の職員の水準を高むる意味に於て中等程度の地方行政講習所の如き鍊成教育を一層普及すること（現在の邑面職員の九割は小学程度）

ハ、区長の待遇を一層改善強化し優秀なる人物を配置すること

ニ、本府及道の職員は質的向上を計り量的には之を減少することとし郡、邑、面殊に面職員の増員を断行すること

等であるが、要するに以上の如く朝鮮の行政は其の実施過程に於ける不正確なる方法と政治技術の足らざる所から本然の姿より逸□する場合多く為に民衆に上層部の意図以上の又は意図せざる重き負担を負はせ一般民衆の認識並に能力が官の要請に追いつかぬ事になり依つて民衆をして疑惑感、時には反感をすら抱かしむる場合が極めて多い、然し兎に角表面から見れば朝鮮の地方行政の第一線は皮相的に其の結果の点に於てのみは相当滲透せるもの謂ふべし

## 五、私立専門学校等整備の知識階級に及ぼしたる影響

〔略〕

## 六、内地移住勞務者送回家庭の実情

従来朝鮮に於ける勞務資源は一般に豊富低廉と云はれて来たが支那事変が始つて以来朝鮮の大陸前進兵站基地としての重要性が非常に高まり各種の重要産業が急激に勃興し朝鮮自体に対する勞務事情も急激に変わり従つて内地向の勞務供出の需給調整に相当困難

を生じて来たのである、更に朝鮮労務者の内地移住は単に労力問題に止らず内鮮一体と云ふ見地からして大きな政治問題とも見られるのである

然し戦争に勝つ為には斯の如き多少困難な事情にあつても国家の至上命令に依つて無理にでも内地へ送り出さなければならぬ今日である、然らば無理を押し内へ送出された朝鮮人労務者の残留家庭の実情は果して如何であらうか、一言を以て之れを言ふならば実に惨憺目に余るものがあると云つても過言ではない

蓋し朝鮮人労務者の内地送出の実情に當つての人質的掠奪的拉致等が朝鮮民情に及ぼす悪影響もさること乍ら送出即ち彼等の家計収入の停止を意味する場合が極めて多い様である、其の詳細なる統計は明かでないが最近の一例を挙げて其の間の実情を考察するに次の様である

大邱府の斡旋に係る山口県下沖宇部炭鉱労務者九百六十七人に就て認査して見ると一人平均月七十六円二十六銭の内稼働先の諸支出月平均六十二円五十八銭を控除し残額十三円六十八銭が毎月一人当りの純収入にして謂はば之れが家族の生活費用に充てらるべきものである

斯の如く一人当りの月收入は極めて僅少にして何人も現下の如き物価高の時に之にて残留家族が生活出来るとは考へられない事実であり、更に次の様なことに依つて一層激化されるのである

(イ)、右の純収入の中から若干労務者自身の私的支出があること

(ロ)、内地に於ける稼先地元の貯蓄目標達成と逃亡防止策としての貯金の半強制的実施及払出の事実上の禁止等があつて到底右金額の送金は不可能であること

(ハ)、平均額が右の通りであつて個別的には多寡の凹凸があり中には病氣等の為赤字収入の者もあること、而も収入の多い者と雖も其れは問題にならない程の極めて僅少な送金額であること

以上の如くにして彼等としては此の労務送出は家計収入の停止となるのであり況や作業中不具廃疾となりて帰還せる場合に於ては其の家庭にとつては更に一家の破滅ともなるのである

然し之等の事情に對する異論もある様である、即ち労務援護や労務協会のことや残留家族殊に婦人の積極的活動に依る収入の確保等があるてはないかと云ふのが其れであるが、然し朝鮮の労務援護に就て云へば左の如き二つの方法があるであらう、其の一つは隣保相助を挙ぐるであらうが、之れも朝鮮の農民と労働者の大衆は未だ斯る良風美俗の実践者たる為には余りにも貧困過ぎる現状であり、其の二は労務協会の援護であるが之れも労務者一人当り五円を財源とする本会の実情は之の予算も現実的には宴会其の他の費用に充てられて居る現状である

更に残留家族殊に婦女子の労働はどうであるかに就て調査して見るに、朝鮮の都市に於ての一家支柱たりし男子に残留婦女子が代替し得ることの出来ないことは固よりであるが農村に於ても土壤の瘠薄性と耕種法殊に農具の未発達、高率の小作料、旱水害、其

の他各種夫役等の増加の多い今日に於ては全家族総動員して労務に従事して漸く家計を維持したる農民が戸主又は長男等の働き手を送出したる後婦女子の労働をして其の損失を補償代替更に進んでは家計の好転を図り得ないことは明白な事実であつて、此の点自然的条件に恵まれ耕種法其の他営農の發達したる内地農村と同一に考へることは出来ないのである、況や朝鮮農村の婦女子は其の九割以上が殆んど無教育であり青少年は徴兵実施と其れに伴ふ各種の鍊成其の他の行事の為に實際的には働手たる意義を大いに減殺されて居るのである

斯して送出後の家計は如何なる形に於ても補はれない場合が多い、以上を要するに送出は彼等家計収入の停止となり作業契約期間の更新等に依り長期に亘るときは破滅を招来する者が極めて多いのである、音信不通、突然なる死因不明の死亡電報等に至ては其の家族に対して言ふ言葉を知らない程気の毒な状態である、然し彼等残留家族は家計と生活に苦しみ乍ら一日も早く帰還することを待ちあぐんで居る状態である、私が今回旅行中慶北義城邑中里洞金本奎東（二十三才）なるものが昭和十八年七月一日北海道へ官の斡旋に依り渡航した家庭を直接訪問して調査したるに、最初官の斡旋の時は北海道松前郡大沼村荒谷瀬崎組に於て本俸九十五円、手当を加へ合計月収百三十円となる見込みとの契約にて北海道より迎へに來た内地人労務管理人に引率され渡航したる後既に一年近くになつても送金もなければ音信もない家に残された今年六十三才の老母一人が病氣と生活難に因り殆んど頻死の状態に陥つて居る実情を目撃した、斯の如き実情は此の義城のみならず朝鮮、北鮮地方に極めて多く、之等送出家庭に於ける残留家族の援護は緊急を要すべき問題と思はれる

其の中にも軍方面の徴用者の中には克く家庭との通信、送金等があつて残留家族にありても比較的安心し生活上にも左程不便を感じざるも、特に一般炭坑並に其の他会社等の關係に在りては右の如く送出後殆んど音信を断ち尚家庭より通信するも返信なく半年乃至一年を経るも仕送金無きものもありて其の残留家族特に老父母や病妻等は生不如死の如き悲惨な状態であるのみならず其の安否すら案じつつ不安感を有する者極めて多く、此の如きは当事者の家庭現状にのみ限らず今後朝鮮から労務者送出上大なる影響を与ふるものとして憂慮に堪へないのである

又仮りに朝鮮農村に於ける男子労力に代つて婦女子勤勞へと一層強化するにしても今日の朝鮮婦女子の特殊立場を没却して唯盲目的に働かす事ばかりは大いに警戒しなければならぬと思ふ、即ち人口増強上重要使命を持つ婦人の保健問題又は内地婦女子と異つて殆んど無教育である彼女達が良く働ける様に仕向ける特殊施設と対策がなければならぬ、例へば共同炊事、託児所、保健婦設置、食糧特配等は特に緊急を要する条件であらう

朝鮮農村の婦人殊に南朝鮮地方の農村婦人は勤勞、増産意欲に乏しく、又家事と育児だけでも力一杯であつて實際問題として増産への勤勞提供の余裕もない実情である、ここに先づ問題となるのは農家の生活改善であり勤勞増産の意欲を旺盛ならしめ容易に増



産勤労部門へ挺身出来る様其の環境を作り上げることが大切であらう

第一に増産勤労婦人隣組隊の如きものを組織して生活の共同化を期し家庭生活も勤労作業も此の共同化された組織と精神に於てなさねばならぬと思ふ、そして託児所を設け又保健婦を成る可く多く嘱託し農村妊婦の保護、育児の輔導等に努めて行けば或は朝鮮婦人も容易に労働に親しみ得るであらうと思はれる

これには従来と異つた相当しつかりした指導者を多く必要とするが、更に託児所、保健婦、共同炊事、食糧の特配等の指導者を得ることが最も大切であるものと思ふ、然し今日の朝鮮農村の現状として農村自体では到底そう云ふ適当な人を得ることは不可能であらう、ここで此の問題に対して真剣に考へさせられることは中等以上の教育を受けた都会の女性達が華やかに飾つて喫茶店から映画館へと空虚な生活を送る嘆はしい現実である此の女性等の胸中に果して国を想ひ非常時局を認識して勝つ為の仕事に尊い汗を注ぐ誠があるかと云ふ問題である、然し全然ないのではないが多くの場合生活の環境がしからしめたのであると思ふ

故に此の際思ひ切つた積極的鍊成対策を樹立して此等の女性を総動員してせめて農繁期の数ヶ月丈でも農村に住込ませ、保健婦として託児所の保姆として奉仕せしめれば真に婦人労働力の完全なる活用が可能であるものと思はれる、之れは金肥を何百叭使ふ以上の実質的效果があるものと思はれる、之れがせめて朝鮮婦女子の勤労強化指導の一策ともなるであらうと思ふのである

#### 七、朝鮮内に於ける労務規則の状況竝に学校報国隊の活動状況如何

従来朝鮮内に於ては労務給源が比較的豊富であつた為に支那事変勃発後も当初は何等総合的計画なく労務動員は必要に依じて其の都度行はれた、所が其の後動員の度数と員数が各種階級を通じて激増されるに従つて略大東亜戦争勃発頃より本格的労務規制が行はれる様になつたのである

而して今日に於ては既に労務動員は最早略頭打の状態に近づき種々なる問題を露出しつつあり動員の成績は概して予期の成果を納め得ない状態にある、今其の重なる点を挙ぐれば次の様である

##### (イ)、朝鮮に於ける労務動員の方式

凡そ徴用、官幹旋、勤労報国隊、出動隊の如き四つの方式がある

徴用は今日迄の所極めて特別な場合は別問題として現員徴用（之も最近の事例に属す）以外は行はれなかつた、然し乍ら今後は徴用の方法を大いに強化活用する必要に迫られ且つ其れが予期される自体に立到つたのである

官幹旋は従来報国隊と共に最も多く採用された方式であつて朝鮮内に於ける労務動員は大体此の方法に依つて為されたのである

又出動隊は多く地元を於ける土木工事例へば増米用の溜池工事等への参加の様な場合に採られつつある方式である、然し乍ら動員を受くる民衆にとつては徴用と官幹

旋時には出動隊も報国隊も全く同様に解されて居る状態である

(ロ)、労務給源

朝鮮内の労務給源は既に頭打の状態にあると云ふのが実状であらうと思はれる  
今尚余裕があると見る向も相当にあるが然し之れは頭数のみを見、人は男女共に内地人男女と同等の能力を有するものと云ふ前提の下に立つてゐる見解である、端的には労銀の想外の昂騰が其の一つの証拠であり又朝鮮人の婦女子は潜勢力としては存在するが現実の家計収入をもたらしべき労働力としては一般に評価し得ない実状にある、斯の如く観じて来るときは朝鮮内の労務給源は非常に逼迫を告げてゐると云ふべきである

絶対的頭数の上から見て朝鮮の労務給源が今尚豊富であると云ふ見解から更に男子を動員することは可能であるが、然る時は婦女子のみが残ることとなり朝鮮の特殊事情から其の實質的労働力は実に薄弱なものとなるから此の点深く実態の観察調査が必要であるものと思はれる

一例を見ると慶北安東郡の如きは総人口十七万人の内農業労働者が六万人、一般労働者に登録されたのが九千九百二十九人となつて居る、此の一般労働者約一万人からは既に昭和十四年以降内地へ供出したもの六千四百二十六人、北鮮地方へ略八百人合計八千人近く既に送出したのであるから残有の労働力としては極めて僅少となつて居るにも拘らず今年更に残留労働者数よりも多く内地送出を命ぜられて僅少な為め第一線に於ける当局者及農村に於ては食糧増産上多大なる影響を及ぼすものとして憂慮しある状態である

(ハ)、動員の实情

徴用は別として其の他如何なる方式に依るも出動は全く拉致同様な状態である  
其れは若し事前に於て之を知らせば皆逃亡するからである、そこで夜襲、誘出、其の他各種の方策を講じて人質的掠奪拉致の事例が多くなるのである、何故に事前に知らせれば彼等は逃亡するか、要するにそこには彼等を精神的に惹付ける何物もなかったことから生ずるものと思はれる、内鮮を通じて労務管理の拙悪極まることは往々にして彼等の身心を破壊することのみならず残留家族の生活困難乃至破滅が屢々あつたからである

殊に西北朝鮮地方の労務管理は全く御話にならない程惨酷である、故に彼等は寧ろ軍関係の事業に徴用されるのを希望する程である

斯くて朝鮮内の労務規制は全く予期の成績を挙げてゐない、如何にして円満に出動させるか、如何にして逃亡を防止するかが朝鮮内に於ける労務規制の焦点となつてゐる現状である

(ニ)、労銀

朝鮮の労働力も右の様に愈々逼迫してゐる為如何なる事業も請負人に労働者を官公署が斡旋するのなければ到底事業遂行は不可能である、故に個人が自由契約に依

り四苦八苦して労働者を雇入れることになる全く驚く程想外の高賃銀を要求されるのである

反之官公署の事業は予算其の他の関係にて右の如き高い賃銀は支払へない、そこで多くは部落聯盟に請負でやらせる、故に朝鮮の部落民は官の事業には殆んど夫役(強制奉仕)の心構にて参加すると云ふ実情である

(ホ)、学校報国隊の活動状況

朝鮮も最近は勤勞教育の強調に伴ひ学校報国隊の活動は文字通り予期以上の成績を挙げてゐるが然しそこには簡単に看過し得ない種々な問題が惹起してゐることも事実である、即ち

1. 上司又は一般に対する見物式の出動で実績の挙げざるものあること
2. 学校に依つて勤勞の時間、程度に於て著しき差別のあること
3. 児童生徒の個々人の身心の状態を無視し一率に過重なる勤勞を課し全く心身疲労し切つて親達の憂慮惻々なるものあること

一般に朝鮮の地方農村には勤勞過重なる場合が多く極端な(入力者註「ナ」字はママ)になれば三食とも草根木皮の粥腹である為め体鍊の時間にすら貧血率倒する頑まない子供が勇々しくも鍬や鎌を手にし文字通り身を粉にして勤勞に従事しつつあるのを目睹し一掬の涙なきを得ない実情である

朝鮮の勞務規制の現状と学徒報国隊の活動状況は大略以上の如くであつて端的に云へば悲觀すべき点極めて多く此れを如何にして今後は正し円滑化させるかに付て考へて見るに勞務管理の根本的核心が先決問題であることは云ふ迄もない、上欄にも少し述べてあるが如く一体朝鮮には戦争に必要な物資も豊富であり労働力も過剰する程にあつたので、之れを戦力化するか否かは一にかかつて勤勞管理の善否にあつたのである、其れが勞務管理の根本対策が足らなつた為めに今日早や行詰りを示す悲觀的狀態に至つたことは誠に残念と言はざるを得ないのである

朝鮮の勞務者をして真に日本人としての所謂玉碎的勤勞をなさしむる為には従来の如き形式觀念的勤勞管理を捨て先づ日本人としての国体思想の自覚、戦争精神の興揚、特に彼等に対する後顧無憂の生活援護、勞力涵養の生活必需物資の充足等精神的生活的に亘る幾多の指導的条件が必要である、即ち朝鮮の勞務管理は思想管理、生活管理に迄及ぼさなければ万全を期することは不可能であるものと思ふ

朝鮮に於ける従来の勞務管理が如何であつたかに就ては其の現実の状況を要点だけ上欄に略述してあるが、今之れを詳細にするには相当長文にもなるし、又最早や内外周知のことに属する故に、茲に更めて蛇足を付するを避けるのであるが、然し矛盾してゐる二つの要点を指摘して速に改善したいのである

第一は未だ朝鮮にはあらゆる部門に亘り資本利潤の確保と其の増進を図る目的の下に行はれて居ること

第二は自由主義者乃至はマルクス理論を肯定しかねない即ち反資本主義的インテリ

―に依って組織せられて居ることの多いことである、そうして此の二つの精神要点は必然的に相矛盾し、朝鮮の労務管理担当者は常に此の矛盾の中に苦悩しつつあることである

そこへ最近特に大東亜戦争勃発以後急に湧発された国体主義の大勢の前に朝鮮人は官民上下殆んど戸惑ひしつつそれぞれ異った思想と考へ方を内包しつつ表面的に形の上では兎に角大勢に順応して来た様に見えることも事実であるが然し本当のことを云ふと勢ひ朝鮮人の国体観念戦争挺身は多く形式的ならざるを得ないのであり、従って幾多の内在的困難を生じて来て居る

更に最近に至り非職業労務、即ち徴用、学徒、女子挺身隊の如きものが混入され朝鮮に於ける勤労管理は其の困難性を益々加重して来た感がする

要するに朝鮮に於ける労務管理問題の根本対策としては先づ今迄の様な官の斡旋とか一般募集の如き方法をやめて所謂皇国的関度を強化し国民皆兵としての指導精神の下に日本的給与、国体的勤労管理に戻らなければならない、即ち徴用をもっと強化し一応等しく赤子としての報国性所謂同一の資格と同一の重要性に、家族主義を融合したる絶対標準の保証を原則とし、之れに内鮮間に於ける特殊事情や勤労者個人の歴史的地位、能力、知識、技術、勤怠、労務量等を加算条件とすることである、要するに原則としては全家族を養ひ、各員をして各々其の性能に依じて尽忠報国を為し得る迄の向上を為さしめ得ることの絶対保証を速に実践しなければならぬと思はれる

以上を以て簡單乍ら上司より内命を受けた調査事項の復命を終ることにする

以上